

令和5年度

全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和5年10月27日

小城市立砥川小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年国語・算数）および質問紙（意識調査）の本校の結果をお知らせします。

【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の事項が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

国語科

○話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できている。

◆複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

算数科

○式を日常生活に関連付けて読み取ることはできている。

◆図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。

【本校の全体の正答率について】

国語、算数ともに全体の正答率は、国・県の平均と「ほぼ同じ」です。

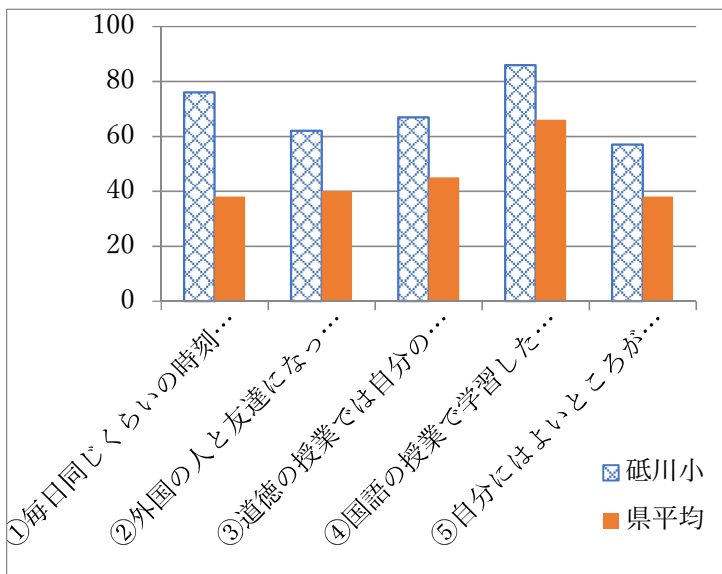
【今後の取り組みについて】

本校では、職員研修で今回の結果を詳しく分析し、今後の授業改善等について話し合いました。学力の向上を図るためには学校における学習指導のほかにも、家庭での学習についても大切なものになります。具体的な取り組み・お願いについては、「家庭学習のやくそく」をご覧ください。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。本校の取り組みをご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

◆生活習慣に関する調査「6年質問紙（意識調査）」

【 数値が特に高かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	毎日、同じくらいの時刻に寝ているか。
②	外国の人と友達になったり外国のことについてもっと知りたいか。
③	道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか。
④	国語の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思うか。
⑤	自分にはよいところがあると思うか。



【分析と取組】

①規則正しい就寝・起床ができている。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みを啓発していく。

②外国語や道徳の授業で今後も国際理解を深める取り組みを継続する。

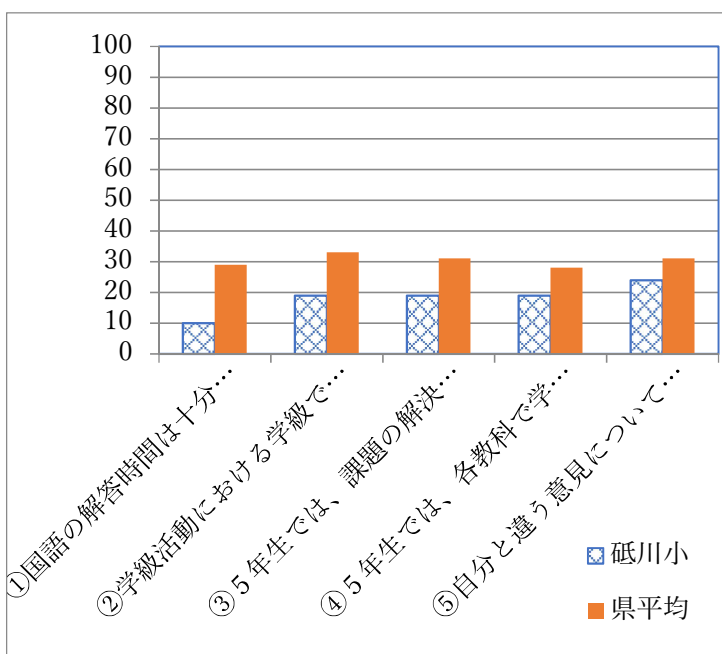
③活発な意見交流が道徳の授業で行われてきた実態から、好意的な意見が多くみられる。

④読んだり書いたりすることの有用性が児童に伝わっている。

⑤さらに自己肯定感が高まるよう今後も児童理解・児童支援を図っていく。

【 数値が特に低かった項目 】

調 査 の 項 目	
①	国語の解答時間は十分だったか。
②	学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか。
③	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか。
④	5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていたか。
⑤	自分と違う意見について考えることは好きか。



【分析と取組】

①算数と比較して国語の調査における解答時間が十分であると答えた児童が少ない。時間配分を意識したり、初見の問題文を読み取ったりする場を多く取り入れることが必要である。

②話し合う内容の見直しも検討し、学級で取り組むことと個人でも取り組むことなどを話し合わせる機会を増やす必要がある。

③課題解決学習を充実させ、自ら考える授業への改善を図る。

④県平均においても肯定的な回答が少ない。まとめまでは学習時間内にできていても振り返りの時間が十分でないなどの課題が見られる。ICT機器を使った振り返りも模索していきたい。

⑤多様な考えにふれるよさ、意見の相違を認め合える学級づくりをめざしたい。

◆令和5年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

全体の概要

- 全体の正答率は、県平均・全国平均とほぼ同じである。
- 観点別にみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに県平均とほぼ同じである。
- 内容別にみると、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」は県平均を大きく上回っていて、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」は県平均とほぼ同じである。「書くこと」は県平均を大きく下回っている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使う問題、敬語を正しく使う問題は、県平均とほぼ同じ正答率である。</p> <p>●文章の種類とその特徴について理解しているかをみる問題では、県平均を大きく下回っている。</p>	<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</p> <p>・漢字については、ある程度定着が見られるため、書き取りなど今の手立てを継続する。</p> <p>・文章の内容理解だけでなく、読み手を意識した文章構成の工夫や特徴的な表現方法にも着目しながら読む活動を意図的に仕組んでいく。</p>
	<p>【情報の扱い方に関する事項】</p> <p>◎原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかをみる問題は、県平均を大きく上回っている。</p>	<p>【情報の扱い方に関する事項】</p> <p>・今後も情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導する。</p>
思考・判断・表現	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>◎目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題は正答率も高く、県平均を大きく上回っている。</p>	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>・今後も立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動を充実させる。</p>
	<p>【書くこと】</p> <p>●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する問題は県平均や全国平均とほぼ同じだが、正答率自体は大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【書くこと】</p> <p>・必要に応じて、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導する。</p>
	<p>【読むこと】</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題では、県平均を大きく上回っている。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題や目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題に課題が見られる。</p>	<p>【読むこと】</p> <p>・知識・技能の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、児童が日常生活において考えをまとめる活動を多く取り入れる。その際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導する。</p>

◆令和5年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- 全体の正答率は、県平均・全国平均とほぼ同じである。
- 観点別にみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに県平均とほぼ同じである。
- 領域別では、「データの活用」で県平均を大きく上回っている。「図形」は県平均をやや下回っている。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>【図形】</p> <p>●正三角形の意味や性質について理解しているかの問題は、県平均や全国平均よりも大きく下回り、正答率自体も大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【図形】</p> <p>・2つ折りの状態で角度を問われている場面での誤答が多い実態であった。正三角形の角度はそれぞれ60°ということは理解できている。条件や問題を正しく読めていないので、下線を引いたり問題場面をイメージしたりする作業を共通実践していく。</p>
	<p>【変化と関係】</p> <p>●百分率で表された割合について理解しているかの問題では、県平均や全国平均よりも大きく下回り、正答率自体も大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【変化と関係】</p> <p>・百分率の意味を正しく理解できていない。人口密度や速さなど、単位量あたりの大きさが生活の様々な場面の中で生かされていることを実感させながら習得させていく。</p>
	<p>【データの活用】</p> <p>◎二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題は県平均を大きく上回っている。</p>	<p>【データの活用】</p> <p>・今後も様々な資料の見方に触れさせ、データの活用の力を伸ばしていく。</p>
思考・判断・表現	<p>【数と計算】</p> <p>◎2位数÷1位数の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題では、県平均・全国平均を大きく上回っている。</p> <p>●()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることを問う問題は、県平均や全国平均よりも大きく下回り、正答率自体も大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【数と計算】</p> <p>・図、式、言葉を連携させて説明し合う「伝えタイム」の実践の成果と考える。今後も伝えあい活動の充実を図る。</p> <p>・学年が上がるにつれて整数→小数→分数と計算のきまりが拡張される。習得が不十分な児童も、復習や6年生での分数のかけ算・わり算の学習を通して計算のきまりを習得できるように指導をする。</p>
	<p>【データの活用】</p> <p>◎示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題では、県平均を大きく上回っている。</p>	<p>【データの活用】</p> <p>・今後も複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導する。</p>
	<p>【図形】</p> <p>●高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題は県平均や全国平均よりも大きく下回り、正答率自体も大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【図形】</p> <p>・具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導する。</p>